名古屋外国語大学 国際経営学部・現代国際学部 同窓会報

NACION vol.6

2010年1月10日発行

発　行：名古屋外国語大学国際経営学部・
現代国際学部同窓会事務局
〒470-0197愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
TEL：0561-74-1111（大学代表）
HP：www.nacion.jp
Email：info@nacion.jp

第５回総会及び懇親会　過去最高の参加者数で、大盛況でした。

2009年7月18日（土）、第5回総会及び懇親会を開催し、約120名の会員と約30名の教職員の方々にご参加いただきました。

当日は名古屋外国語大学7階1階食堂に会場をお借りし、11時00分より総会を開催しました。冒頭で玉井学部長よりご挨拶を頂戴し、その後、議題として2008年度決算報告と2009年度予算案の審議を行い、全会一致で承認されました。また、新たに「内規」を作成し、その内容についても全会一致で承認されました。（内規についてはホームページ上に掲載。）その後、2009年度NACIONスカラーシップについて報告を行い、最後に顧問にご就任いただいた植松千里先生よりご挨拶を頂きました。

総会後、11時45分より同会場にて懇親会を開催し、まず始めに水谷修学長よりご挨拶を頂戴しました。そして武田事務局長による乾杯の音頭で宴が始まりました。お食事中は音楽演奏を楽しみ、大変な盛り上がりを見せました。

その後、13時00分よりスペシャルゲストとして「眞鍋かをり」さんにご登場いただき、FMラジオでお馴染みの「空木マイカ」さんとの対談形式でトークショーが行われました。眞鍋かをりさんの体験談を交えた楽しいトークと空木マイカさんの巧みな話術に参加者は聞き入り、笑いの絶えない時間を過ごしました。トークショーの後、大抽選会が行われ、ハワイ旅行やブルーレイ、眞鍋かをりさんグッズなどの抽選で盛り上がり、当選者は眞鍋かをりさんから景品を受け取り、感激していました。

今年は過去最高の参加者数となり、同窓会役員そして大学関係の方々も大変喜んでいます。ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございます。

2010年も懇親会を開催します。今までご参加いただいた方もまだ参加したことのない方も、同窓会に関心を持っていただくことで母校の発展にもつながります。ご参加を心よりお待ちしています。

▼ 第５回総会及び懇親会次第

日　　時：2009年7月18日（土）　11：00～14：00
会　　場：名古屋外国語大学7号館1階
総会次第：1. 開会の辞
2. 同窓会長挨拶
3. 現代国際学部長挨拶
4. 議　事
① 2008年度決算報告
② 2009年度予算案
5. 報　告
①内規について
②スカラーシップ受給者について
③顧問の就任について
6. 同窓会顧問挨拶
7. 閉会の辞
懇親会次第：1. 開会の辞
2. 名古屋外国語大学長挨拶
3. 乾　　杯
4. 音楽演奏
5. 眞鍋かをりトークショー
6. 大抽選会
7. 同窓会長挨拶
8. 閉会の辞

▼ ご出席いただいた教職員の皆様（順不同）

中西　克彦（中西学園理事長）	水谷　　修（学長）
玉井　俊紀（学部長）	蔵田　敏明（学生部長）
浅川　健次（教授）	権　　泰段（教授）
水野　積成（教授）	林　　慶雲（教授）
浅野　輝子（准教授）	宮川　公平（先生）
植松　千里（教授・退任）	熊田喜三男（教授・退任）
武田　修治（事務局長）	市岡　　高（事務局次長）
浅野　昌章（学生課長）	青木　康祝（教務課長）
児玉　通夫（庶務課長）	その他教職員の皆様

▼ 大抽選会景品一覧

①眞鍋かをりさんの著書
②眞鍋かをりさんの色紙
③ハワイ旅行ペアご招待
④ルイス・ヴィトンバッグ
⑤ブルーレイレコーダー
⑥モバイルノートPC
⑦プレイステーション3
⑧ダイソンハンドクリーナー
⑨エスプレッソメーカー
⑩ホームベーカリー
⑪デジタルフォトフレーム

現代国際学部の教員から同窓生へ、社会人の先輩としてメッセージや教訓を頂戴しています。

粘りの大切さと逆転の可能性

現代英語学科
目黒　博 教授

今年(2009年)の7月ごろ、卒業したばかりの元外大生にばったり会いました。就職後3ヶ月で仕事を辞めたと言うのです。「石の上にも三年」、ある程度我慢してしっかり働くと、他人の仕事ぶりや組織の動き方が理解できるようになり、仕事のノウハウも身につき、自分の個性も見えてくるものではないか。そんなことを考えているうちに、私自身の若いころ、つまり転職と留学の時代を思い出しました。

大学を卒業した後、私は横浜市役所に勤めました。大学では「都市問題」ゼミに所属し、環境問題の研究サークルも作るなど、都市計画や環境問題への関心が強く、市役所を選んだのでした。しかし、役所の雰囲気になじめず、あまり熱心に働きませんでした。言われたことだけをやるという、消極的な姿勢のまま役所に通う状態が続きました。この横浜市役所時代の数年間は、最も時間を無駄にした時期だったと言えます。とは言え、この時期を振り返ってみて良かったことが一つあります。徹底して迷ったことです。迷うことで私の個性が見えてきた、つまり生き方が少し固まったと思います。

さんざん迷った末に横浜市役所を辞め、英語を勉強しながら塾などで5年ほど働きましたが、この時期はかなりがんばったと言えます。3年目くらいになると、たいていの講師たちは教材や教え方に慣れてきて随分と手を抜いていたようでした。しかし、私は一切手抜きせず授業の準備に相当の時間を費やしました。良くない問題は削り、良質の問題を補充するなど、教科書を編集し直しましたし、生徒が集中できるように教えるペースを変え、当て方に工夫を加えるなど、教え方も磨いていきました。その後アメリカの大学で日本語講師になった際にも、この時代の経験は随分役に立ったと思います。一所懸命に取り組めば、後で必ずプラスになると、そのとき確信しました。

外大で私のゼミは厳しいという噂が立っているそうです。確かに厳しいかもしれません。私はしっかりやらない限り、何事も身につかないと思っているので、ゼミ生にはがんばることを要求します。ただし、やみくもにがんばることを押し付けるつもりはありません。好きなことに集中して取り組む、困難な問題があっても簡単にあきらめずに粘っていくことを重視しています。そうすることで、色々なことが吸収できるし、自分の個性も見えてくると思うからです。反対に、適当にやっていたのでは自分自身の傾向や限界、向き不向き、つまり自分の個性が分からないままになります。

アメリカには2年間留学しましたが、当初は大変不安でした。ほとんどの留学生が20代前半で、私は既に34歳になっていたからです。語学は若いほどマスターしやすい、年寄りは不利だという説を私も信じていました。ところが実際には、私は社会人を経験していたことで、日本の教育事情や政治社会問題など説明できることが多く、アメリカ人や他の国からの留学生たちから「日本のことならヒロシ（私）に聞け」と言われるようになりました。パーティに誘われたりして、友人もたくさんでき、突っ込んだ議論をするチャンスも多かったので、その分英語力も伸びたと思います。

アメリカの大学で日本語講師の仕事に応募した際にも、年齢が高いという理由で、13倍の倍率を突破して採用されました。当時は世界的に日本への関心が高まっていて、30歳代の大学院生や教授が日本語クラスを聴講することも多く、年齢が高い方が講師に向いているというのです。不利と思われた点が現実には有利に働いたわけです。

仕事がうまくいかない、英語に自信がない、会議などでうまく発言できないなど、様々な悩みをもっている人がいるかもしれません。でも、そのような一種の劣等感や悩みは、同じような悩みを持つ他人を理解できるという意味で、プラスになることがあります。また、仕事がいやになり、悩んでいる人にはこの際徹底して迷うことを勧めます。迷うこと、悩むことは自分を見直すことです。しっかり見直すことで、新しい道が切り開かれることがあります。また、のちに後輩が迷っているときに理解者としてサポートできるかもしれません。今、マイナスに見えることも、いつの日かプラスになる可能性があるのです。

大学を卒業し、社会の中で生きている皆さん、今の仕事や生活のことで迷ったり悩んだりしているとしても、とりあえずは簡単にあきらめずに粘って、ノウハウを吸収し、少しずつでも自分の個性をつかんでいってください。また、頭の片隅に、マイナスもいつしかプラスになり得るという「逆転の可能性」を覚えておくと、少しばかり余裕ができるかもしれませんよ。

（2009年12月記）

毎号、数名の同窓生をピックアップし、卒業後の近況をお伝えします。

新たな人生のステージ

濱田　麻弥 さん（9期）

早いもので、大学を卒業してからもう4年が経とうとしています。大学での生活を振り返ってみると、友達と一緒にランチをしながらCEの課題に取り組んだり、授業後はAVセンターで映画を観ながら英語を学んだり、また奥田先生には授業の空時間で特別に和訳の指導をしていただいたりと、外国語大学ならではの語学環境の整ったキャンパスで過ごせた事は、私にとってすごく貴重な経験です。そして何より、一生の友達と出会えたことが私の大学生活の宝物です。今でも月一でランチに行ったり、旅行に行ったりと仲の良さは変わりません。

卒業後、私は『誰かの役に立ちたい！！』という想いから、お金のエキスパートである野村證券株式会社に入社しました。入社してすぐは日経新聞の読み込み、株価などの指標チャートの作成など“証券マン”として当然使いこなせなければならないアイテムの習得に泣かされる日々でした。そして、最初の1年半は、主にお客様からの電話対応や来店されたお客様の窓口での接客が仕事でした。いかに丁寧に、かつ迅速にお客様の要望に応え、さらにはお客様自身の気付かれていないニーズを見つけ出し、証券を提案していくかというまさに“人間力”の問われる業務でした。証券とは目に見えない商品だからこそ、知識と、それ以上に提案する“営業マン”の質が求められるということを痛感しました。

その後の1年半は法人課で主に市役所などの会計・出納担当の方々がお客様となりました。それは、今までの営業スタイルとは全く異なったものでした。一番大きく違う事は、私の方からお客様のもとへ出向くという事です。それは、こちらを向いてくださっていないお客様に対して証券というものを説明し「これからの資産運用には必要である。」と思っていただくという事でした。初めは、市役所へ何度足を運んでも「うちは必要ないよ。運用なんて難しくてね。」と相手にされなかった状態が長く続きましたが、それでも「絶対にお客様にとって役立つはずだ。」という信念で通い続けていくうちに、会計室長の方から、色々と債権や株についてのご質問をいただく様になりました。そして質問事項を会社に持ち帰っては、わかりやすいよう図を使ったりして資料にまとめて、後日ご説明に行ったり、時には本社の専門家講師を招いてセミナーを開催したりしました。そうしているうちに、会計室長との信頼関係もでき、最終的には野村證券で口座を設けて債券で運用してくださるようになりました。そして、会計室長が「ありがとう」と言って喜んでくださった笑顔は今でも強く心に残っています。私の社会人生活はたった3年間という短い間ではありましたが、3年間とは思えないほど非常に濃いものでした。

そして、2009年5月に会社の同期と結婚し、現在は専業主婦の生活を満喫しています。初めて実家から離れ、家事の何ひとつ出来なかった私ですが、今では何とか掃除、洗濯、夕飯の支度など楽しんでやっています。親元を離れてみて初めて、お母さんのありがたみを実感しています。結婚してからは、生活スタイルも一変し、働いていた頃の時間の足りなさが嘘の様にゆっくりした時間が流れています。子供の頃に習い事ではじめたピアノも、もう何年も弾いていなかったのに、これを期に趣味として弾きはじめました。学生生活とも社会人生活とも違う充実した日々です。

そして、12月からは夫の転勤で埼玉県の浦和で暮らすことが決まり、いよいよ名古屋を離れるときが来ました。今は、期待と不安が入り混じった状態ですが、新たな人生の第一歩として前向きに取り組んでいきたいと思います。そして、どんな時でも、かげながら夫を支え続けていける様に頑張っていきたいと思います。

（2009年11月記）

同窓会事務局では、「同窓生のいま」へのご投稿を随時受け付けています。現在の近況等を1,200～1,500字にまとめて、写真とともに事務局までお送り下さい。（文章と写真はなるべくデータでお送りください。）

ご投稿いただいた内容は順に会報に掲載させていただきます。尚、掲載させていただいた方には謝礼として3,000円分の商品券を進呈いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

お問い合わせ・送付先 → info@nacion.jp

NACION スカラーシップ

NACION スカラーシップとは、在校生への支援を目的とした奨学金制度です。何かを学ぼうとしている学生で金銭的な支援者を必要としている学生を募集し、その内容によって奨学金を一人あたり上限 20 万円まで支給します。

2009 年度の募集には 2 名の学生より応募していただきましたが、役員会にて書類審査と面接を行った結果、今回は残念ながら採用を見合わせることとなりました。

同窓会は今後も、何かを学びたくても金銭的な理由でそれを断念しているような学生を支援していきたいと考えます。皆様から頂戴した寄付金の一部もこの奨学金として活用させていただきますので、もっと多くの学生を支援できるよう、益々のご協力をよろしくお願い申し上げます。

以下に 2008 年度受給者 4 名の内 3 名の報告書を掲載します。（他 1 名は、前回の会報にて掲載済みです。）

NACION スカラーシップ報告書

卒業論文作成のための地域研究

鈴木　恵美　［現代英語学科 4 年（2009 年 3 月卒業）］

1. はじめに

私は卒業論文のテーマとして、ストリートチルドレンを取り上げている。このテーマに取り組み始めたのは、2006 年に大学を休学し、メキシコのストリートチルドレンを支援している現地 NGO 団体 Fundacion Pro Ninos de la Calle, I.A.P.（以下、プロニーニョス）で、半年間ボランティアスタッフとして働いたことがきっかけである。この景観を研究に活かし、またストリートチルドレンと向き合うことを続けていきたいと考え、このテーマを選んだ。特にメキシコでのボランティア活動から、ストリートチルドレンを直接支援するだけではこの問題を解決することは出来ないのではないか、と感じた。そのため今は主に、経済・政治的側面からの解決方法を研究している。

卒業論文では、NGO 団体の活動の限界や問題点等を明らかにし、経済や政治とどのように関わっているのか研究したいと考えている。そのため、今回のメキシコ渡航では、もう一度現地 NGO 活動に参加することと現地の青年海外協力隊の隊員等への聞き取り調査などを計画した。

［NGO のメキシコ人スタッフと多国籍なボランティア
（本人：下段右から 2 人目）］

2. メキシコへの渡航概要案

（1）日程 2008 年 8 月 26 日（火）～ 9 月 12 日（金）
　うち 4 日間が移動
（2）活動及び調査予定
　①プロニーニョスでのボランティア活動
　②青年海外協力隊員 2 名への聞き取り調査
　　ⅰ）川崎新一郎氏（派遣団体：プロニーニョス）
　　ⅱ）松山優子氏（派遣団体：Fundacion San Felipe de Jesus,I.A.P.（以下、サンフェリペ））
　③高知大学大学院研究員小松仁美氏への聞取り調査
　④その他（資料集め、路上観察など）

3. 実際の活動

今回のメキシコ滞在は約 2 週間の予定だったが、やむを得ない事情により 9 月 2 日（火）に帰国の途に就くことになった。そのため、実際に現地で調査できたのは 5 日間という短い期間となり、予定していた調査もほぼ半分が未消化という残念な結果となった。

（1）日程　2008 年 8 月 26 日（火）~9 月 3 日（水）
（2）活動内容
　①プロニーニョス訪問
　②青年海外協力隊への聞き取り調査
　　ⅰ）松山優子氏（派遣団体　サンフェリペ）
　③その他（路上観察など）

4. 活動及び調査内容

①プロニーニョス訪問

一年半ぶりにプロニーニョスを訪れた。スタッフは若手を中心に入れ替わりが見られ、また施設に通う子供の数が減っていることなどがわかった。また半年前に関わりのあった子供 2 人と会うことができ、それぞれの現在を知ることがきた。

［メキシコシティの風物：靴磨き］

②青年海外協力隊への聞き取り調査

現在、青年海外協力隊として JICA から派遣されている松山優子氏にお会いし、お話を伺うことができた。松山氏が派遣されているのは、プロニーニョスのようにメキシコシティでストリートチルドレンの支援をしている現地 NGO の一つ、サンフェリペという団体である。松山氏への聞き取り調査から、サンフェリペという団体について知ることができたと同時に、プロニーニョスとの違いや、それぞれの団体の課題点などを指摘することができた。

③その他　路上観察など

［路上で寝泊りする少年］

プロニーニョス訪問において施設に通う子供の数の減少が見られたが、路上を歩いてみて路上の子供の減少も見られることが分かった。また、以前は路上生活者がよく見られた一帯は、植込みの木が広範囲で花壇に変わっているなどした。路上生活者やストリートチルドレンなどが寄り付きにくくなるような政策が取られているという話を聞いたが、残念ながらそれを裏付ける資料を手に入れることはできなかった。

5. 今後にどういかすのか

今回の滞在では、自分自身が感じたこと、発見したことなどに関する資料なども手に入れたいと考えていたが、滞在予定よりも早く帰国することになってしまい、資料集めをする時間が取れなかった。しかしながら、前回の滞在と比較することやいろいろな方の話を聞くことで、新たに発見した点を今後の研究に活かしたいと思う。

6. おわりに

この度は同窓会から奨学金という形でご支援いただき、ありがとうございます。今回のメキシコ滞在は、残念ながら予定よりも短いものとなってしまいましたが、自分の研究に活かせる新たな視野を手に入れることができたと思います。

今春、名古屋外国語大学を卒業と同時に愛知県立大学の大学院に進学することとなりました。研究にはたくさんの先行研究文献を読むことが大切ですが、現地で過ごしたという今までの経験も大切にし、今後も研究を続けていきたいと考えております。

ご支援、本当にありがとうございました。

（2009 年 3 月記）

［ベジャスアルテス宮殿（メキシコ国立芸術院）］

［メキシコ世界遺産　テオティワカン］

NACION スカラーシップ報告書

エアラインスクールへの通学

森　愛三美　［現代英語学科３年（2009 年４月より４年次に在籍）］

この度、NACION スカラシップでご支援いただき、誠にありがとうございます。私は入学以前から、航空業界で働きたいと思っておりました。そのために、JAL と提携しているこの学部を選び入学しました。大学で学ぶ傍らで、自分のモチベーションアップにと、エアラインスクールに通い、より専門的な内容を学んでおります。

その中でも私が一番得たものは、感謝の気持ちを持ち一日を有意義に過ごすという社会人としての心構えや、人生の歩み方でした。エアライン業界への就職は、ゴールではなく通過点だということも教えていただきました。また、もっと視野を広く持ち、その中で自分に合う道を導き出していくことが大事だということも学びました。

経済的にご支援いただいたおかげで、昨年はもう一つ貴重な経験をさせていただきました。それは、夏休みに行われた JAL グループインターンシップに参加できたことです。8 月 4 日から約 4 週間、株式会社 JAL スカイ名古屋の研修生として中部国際空港でグランドスタッフとして働きました。到着業務やゲート業務等、他の社員の方々と同じように働かせていただき、出発ロビーではアナウンスを任されることもありました。1 機の飛行機を飛ばすためにどれだけの人が携わっているのか肌で感じることが出来ました。研修中は、社員の方々が優しく声をかけていただくことも多く、航空業界で働きたいとより強く思うようになりました。

今年は不況の影響で、どこまで満足のいく就職活動が出来るかわかりませんが、エアラインスクールで学んだことや、インターンシップで得た経験を糧に悔いのないように頑張っていきたいと思います。最後に、今回の NACION スカラシップに選んでいただき、本当にありがとうございました。

（2009 年 3 月記）

日加修好 80 周年記念　平成 20 年度ミササガ派遣市民団への参加

斎藤　智慧　［現代英語学科３年（2009 年４月より４年次に在籍）］

期間：2008 年 6 月 27 日～ 2008 年 7 月 7 日
場所：カナダ・オンタリオ州（ミササガ市、トロント市、ウッドストック市等）
スカラーシップ使用目的：日加修好 80 周年記念市民派遣事業のためのカナダ渡航費

私は、刈谷市国際交流協会にて文化交流会の企画・運営や通訳翻訳をボランティアで行っていることがきっかけで、この市民派遣事業に参加することになりました。参加が決定したときは、日本を PR し、ミササガ市国際交流ボランティア（The Mississauga Friendship Association）がどのように機能しているのかを学ぶつもりでいました。しかしながら、多くの人と触れ合うことで、それ以上のものを手に入れることができました。

［The Mississauga Friendship Association とともに］

ミササガ市国際交流ボランティアは、到着前には公式行事プログラム作成、ホストファミリー選定、施設などの予約、到着後は送迎から実際のイベントの進行など行っていました。この点においてはどこも同じようだと思いますが、まさに成功の 9 割が下準備、1 割が実際の行動にかかっているのだと感じました。しかし少し違いを感じた点は、組織自体が刈谷市のものよりも小さい規模でありながらも『名前だけ』登録している人がほとんどなく、本当にやる気のある人のみで活動しているような印象を受けました。

私たちは現地にて、カナダデー（7 月 1 日）には、鳴子踊り・バサラ踊りを約 2000 人の前で披露し、また、生け花・お茶・七夕体験スペースを設けるなどして、日本の文化を紹介しました。日本語を話すことができるカナダ人はほとんどいないだろうと思うのに、踊りを通して観客と一体となり、盛り上がることができました。言葉を介さなくても、文化の交換はできるということを確かに肌で感じた瞬間でした。

カナダ出発前には、どんなイベントを行うか、どのように茶器や剣山、受け皿などの道具を制限内で調達し持ち運ぶかなどを検討するところから始まりました。やりたいことと実際に出来ることが一致しないこともあり、議論がまとまらない時もありましたが、多角的に物事を捉えることで新たな視点を提案することに努めました。一部の市民団は、元々踊りのチームで指揮をとっている方であったので、ダンスの練習においては、その方々を中心に週 3 ～ 4 回集まり練習しました。60 代の方も数名おり、私以外は学生ではなかったので全員のスケジュールを調整しつつ、ビデオや CD を製作して自宅でもしっかりと練習しました。

この派遣中には、ミササガ市国際交流ボランティアや現地住民の方など大変多くの方と関わることができました。それに加え、ミササガ市長、ウッドストック市長、トロント副領事、トヨタ紡績株式会社の工場長や社員の方、現地通訳をしている方とお話しをする機会があり、私のキャリア形成にあたっても大変重要なアドバイスを頂きました。

［ミササガ市長、刈谷市長とともに（ウェルカムレセプションにて）］

［ミササガ・刈谷フレンドシップモニュメント］

この経験を通して、個人だけでは作りえなかったであろう感動が、個々の相乗効果によって、より大きな魅力を引き出せたのだと感じます。また、様々な生き方をしている方々とお話をしたことで、自分の意見を持たなければ、本当に相手を理解したり、対等な立場で付き合うことはできず、単に愛想がよいだけでは、人から認められる存在にはなりえないということを学びました。余談ではありますが、帰国後の TOEIC では 985 点を取得することもできました。

このように有意義で大変学ぶことも多い体験ができたのも、同窓会の方々のサポートがあったからだと思い、大変感謝しております。どうもありがとうございました。

（2009 年 3 月記）

［生け花体験ブース（カナダデーにて）］

［鳴子踊り・バサラ踊りを披露（カナダデーにて）］

［ミササガ市議事堂］

［トヨタ紡績株式会社］

［トロント大学］

現代国際学部ニュース

◇ 最近の国際ビジネス学科のご紹介 ◇

同窓生の皆様お気ですか

同窓生の皆様お元気でご活躍のことお喜び申し上げます。10年間の国際経営学部とその実績を踏まえつつより時代に即応した形でと発展的に改組いたしました現代国際学部・「国際ビジネス学科」もすでに6年を経過しました。この間に送り出した卒業生の皆様が、いよいよ社会の中で中枢的役割を果たす時代に入って参りました。しかしそれだけにまた仕事面での役割も重要性をまし、抱える問題も多様性を持ってきますので多くの悩み持ちながらの日々奮闘かと推察致いたします。

今年の卒業生は、昨年度に端を発しました世界的不況のあおりをうけ厳しい就職戦線にさらされることになりましたが、皆元気で期待を持って大いに頑張っております。やがて皆様のお仲間として社会でお会いすることになるのでしょう。

「文部科学省支援事業」への報告書が完成しました

06年度よりの3年間の継続事業として採択され取り組んだ「文部科学省支援事業」の報告書が完成いたしました。この事業の推進は学科の企画を大きく後押ししてくれました。

学生・教職員にも大きな刺激を与えてくれ、とても元気が出てきたように思います。

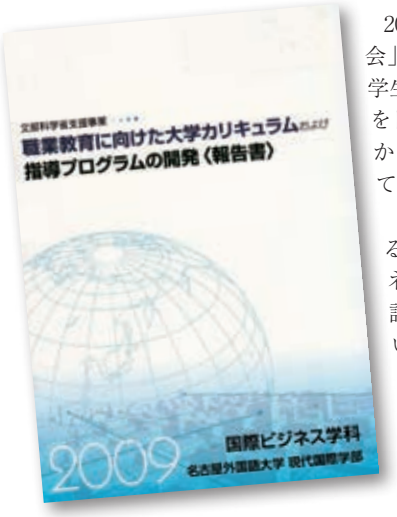
事業の取り組みは総合的なものですが、社会参加に向け学生が修学期間を最大限有効に活用し学習する、本人の自覚と教育の相乗効果をあげていこうというのが基本的な狙いです。そのためには「動機付け」と「その確認」、「学ぶべき内容」と「社会のニーズ」を明確にしていこうというものでした。このためにはやはり実社会（職業）に活かせる教育の内容をいろいろな視角から検討しておくことが大切ということで、社会での活動に向けての基礎調査には先輩の卒業生の皆様のご協力も頂きました。

社会に役立つ基礎力の養成を推進

学生の知的関心の豊かな広がりを尊重しながら時代の風を受け止めて、自ら生きる力をもってビジネス界において自己を実現していく事の出来る知識･能力の基礎づけを果たして行かねばなりません。当初に抱いた学生の期待を学科での学習対応及び意識付けに早期に反映させなくてはなりません。

大学は教育機関の最終段階として社会への対応の仕上げを課題としています。しかしそこで与えられた時間はけっして充分にというわけではありません。まして現代はスピードアップの時代。なにもかもめまぐるしく変化していきます。この経済社会の現実は「不確実性」の言葉で表象されるごとく実に多様に展開されております。このような中で将来を見据えて自らの方向性を見極めるということはなかなかに難しいものです。自分を見つめる、まさに「大学は社会に向けての最後のオアシス」と言わざるを得ません。

学生による新入生歓迎シンポジウムにモニター委員会が活躍しています



2007年に「学生モニター委員会」が発足し、ビジネス学科の学生の大学生活の自意識の向上を目的としてのさまざまな角度からの意識調査を中心に活動しています。

国際ビジネス学科を志望する学生の動機は「英語とビジネス理論」、「仕事に使える英語」と二者が同時に学べるということにありました。これを活かしつつ私たち「国際ビジネス学科」の教育目的は、現代の国際情勢の変化のなかで真の国際社会に通じる教養を備えた、そしてこのグローバルな経済社会で活動している企業で求められている知識、ビジネス理論の研鑽ですがなにより人間としての魅力の上にそれは位置づけられなければなりません。

モニター委員会は学科が推進する事業の学生への具体的な浸透の確認に貢献しています。08年度からは新入学生の大学生活への導入と意識付けを目的にシンポジウムを企画して成果をあげています。

新入生歓迎シンポジウムでは

新入学時には多くの戸惑いや疑問が交錯します。これらの要因の解決のため､学生の目線において「疑問の提起」「討論」そして「相談」の具体的な場を設定しました。モニター委員のメンバーの協力を得て効果的に進めることが出来ました。

（記事）国際ビジネス学科長　稲福　善男　教授

◇ 現代英語学科 2009 年度これまでの取り組みとこれからの予定 ◇

1）フレッシュマン・キャンプ

今年度も 4 月 3・4 日の日程でフレッシュマン・キャンプを実施しました。今年は、それまでの合歓の郷（三重県）から浜名湖ロイヤルホテル（静岡県）に場所を変えて実施しました。

今年は英語を用いたさまざまなアクティビティーを行いました。1 日目の第一部では相互交流を図るためドッヂビーとバレーボール大会を行い、第二部ではグループに分かれて個々人をしることができる英語双六や Find someone who・・・という共通点探しゲームを英語で実施しました。夕食後の第三部では上級生らによる教員紹介が行われ、新入生は各教員の担当科目や専門分野についての説明に興味深く聞き入っていました。2 日目には、新入生に入学後の大学生活のイメージをもってもらうため、上級生による学生生活紹介、英語ネイティブ教員との「英語 de しゃべろう」などを実施しました。会場は学生たちの活気で湧きあがっていました。

2）海外研修・留学

【夏期短期研修】

8 月 2 日 ～ 31 日の日程で、現代国際学部の 19 名がバンクーバー・アイランド大学（カナダ）での語学研修に参加しました。学生はホームステイをしながら、英語と文化を学習し、また、パーティなどで日本文化を披露するなど活発な交流を行ってきました。なお、今年はインフルエンザの影響の為か、例年と比べて参加者は少なめでした（昨年参加者は 38 名）。

【春期短期研修（2010 年 2 月及び 3 月実施）】

今年度も、春期研修はオーストラリアン・カソリック大学（オーストラリア）とワイカト大学（ニュージーランド）の 2 大学にて行われます。

【中期留学】

9 月 19 日から 12 月 20 日の日程で、現代国際学部の 10 名がマンチェスター大学（イギリス）へ留学中です。マンチェスターはイギリス北西部に位置し、古くは産業革命発祥の地の一つであり工業として有名となりました。現在では商業都市として、さらには高等教育・メディア・芸術の盛んな都市として知られています。マンチェスター大学はこれまでに多くのノーベル賞受賞者を輩出するなどイギリスでも屈指の名門大学です。同大学の英語プログラムでは、本学部の学生の皆さんは通常の英語プログラムに加え、インターンシップも経験します。

3）教養文化セミナー

教養文化セミナーは一昨年から実施している行事で、よく知ってはいても実際には接触する機会がほとんどない伝統文化に直接触れる目的で、一年生と二年生を対象に実施しております。

一年生は 7 月 26 日にオペラ『カルメン』（「題名のない音楽会」で司会を務めている佐渡裕氏の監督指揮による）を、そして二年生は 10 月 10 日に歌舞伎『忠臣蔵』を鑑賞しました。多くの学生が、実際に本物を見てその迫力を感じている様子でした。

↓【1 年生　オペラ鑑賞　県立芸術劇場にて】

↑【2 年生　歌舞伎鑑賞　御園座にて】

4）学生通訳コンテスト

今年度も、全国各地の通訳教育を行っている大学に呼びかけ、12 月 5 日に「第 3 回学生通訳コンテスト」を開催しました。今年のトピックは「グローバル化の中での裁判員裁判制度」でした。

東京外国語大学、神戸市外国語大学、京都外国語大学、大阪大学など全国 12 大学 12 名の学生が通訳スキル鍛錬の成果を競うもので、本学からも現代英語学科の河合孝祐君が参加しました。結果は、河合君が見事に優勝を勝ち取りました。本学科の HP にて、当日の様子と河合君のコメントを掲載しておりますので、ぜひご覧ください。（現代英語学科 HP：http://decs.nufs.ac.jp/）

また、これまで東海地区からの参加は本学だけでしたが、今年は金城学院大学の参加もありました。今後、東海地区からの参加大学がさらに増えることが期待されます。

（記事）現代英語学科　宮 川　公 平　教授

同窓会本部より

同窓会長　中村　憲広

同窓生の皆様、明けましておめでとうございます。

さて、このNACIONの原稿を実際に書いている12月も終盤に差し掛かろうとしているこの時期から年始にかけて、私はいつもこの一年を振り返って、自分の反省点や来年への目標から始まり、社会の情勢や今後の動向などを分析する時間をとるようにしています。皆様も同じように時間の多少こそあれ、一年の振り返りをするのではないでしょうか。

2009年は、アメリカから端を発した不況は日本にも打撃を与え、環境問題や新型インフルエンザ、政権交代などさまざまな出来事がありましたが、とりわけ私達同窓会におきましては第5回の同窓会総会とその後の懇親会において、大盛況となったことが大きな出来事でした。

もうかれこれ1期生が卒業してから、早いもので10年もの月日が経過しました。20代～30代という年代は仕事に一生懸命で、なかなか母校を振り返る機会がないのではないかと思います。仕事も家庭も少し落ち着いてきた30代中盤に差し掛かり、自分の母校である名古屋外国語大学を懐かしく想い、恩師や仲間を思い出し、そうしてのち同窓会へと足が向いてくるのではと思います。今回の同窓会総会においても、1期生の多くの参加者がそういった心境だったのではないでしょうか。

昨今のような変化の激しい時代だからこそ、同窓会員の心のアンカーとなれるような同窓会でなければならないと思います。2010年も、同窓会員の心の拠り所、友人同士や恩師との架け橋、はたまたビジネス面でのフォローアップ等、皆様のお役に立てますよう役員一同取り組んで参ります。

2010年も同窓会をどうぞよろしくお願い致します。

皆様の益々のご多幸をお祈り申し上げます。

キャリアデザインセミナーの実施報告

大学卒業後、就職してから本格的に自身の人生設計について考える人は多いと思います。社会に出たからこそ気付いた点も多々あることでしょう。これからどのように進もうか迷っている人もいるでしょう。

そのような同窓生の皆さんに、ご自身の人生設計（キャリアデザイン）について深く考えていただき、今後の人生の参考にしていただければと考え、第1回キャリアデザインセミナーを実施しました。セミナーでは、植松千里顧問が講義を行い、平行してキャリアアドバイザーをお招きして相談会も実施しました。

開　催　日：2009年12月12日（土）

プログラム：14：00～15：00　講義「キャリアデザインについて」＆意見交換会

15：00～17：00　キャリアデザイン作成＆専門アドバイザーへの相談

キャリアデザインセミナーの実施について

同窓会顧問　植松　千里

最近では、日本でも新卒者が卒業後就職し定年まで同一企業に在職せず離・転職を望む者が多くなり、以前のような終身雇用が望ましいとする雇用慣行が変わってきている。これは決して非難されることではないが、できれば定年まで勤続することが望ましい。日本企業間の転職では、職業人生の総収入もそのほうが一般的に好条件なのである。

ところで、ここで卒業時に就職先の選択をどうしたか思い出して欲しい。その時点で一番重きを置いた判断基準は何であったか？多くの場合、就職したいと思う企業を「業種」か「職種」のいずれかで選んだのではなかっただろうか。ところが、こうして落ち着いた企業から入社後3～5年で離･転職を考える人は､｢職種｣にこだわって企業選択し、入社にこぎつけた人に多いのではないだろうか。もともとこれまで日本企業では従業員の職務や職種をそれほど厳密に規定する習慣が無く、流動的であるのが特徴である。入社間もない従業員の担当職務の職種差異について、それほど神経質に考えていない場合が多いのが原因である。むしろ企業の知名度や業種に深い関心を持ち「職種」にそれほどこだわらない人は、その点で不満や不適法を感ずることは少ないのであろう。

離･転職を考えている同窓生諸君からの相談でその理由を聞くと、希望の職種あるいは職務に就ける見通しがもてないとミスマッチングへの欲求不満が多く、これは個人が持つ欲求に根ざすもので他人には理解できない理由と映る。人間の高次の欲求は第三者には判定がなかなか理解できない性質のものだからであり、ましておや、その解決に助言をすることは不可能に近い。そもそもその解決は他者によるのではなく､自己責任の努力的行為によるものだからである。ただ、その行為を効率よく進められる手法があることを知るのは大切であり､「キャリアデザイン」というコンサルティング手法がそれである｡｢キャリア(CAREER)｣とは､自分の職歴や経歴を意味し､それを自己責任で形成していくという考え方である。

このキャリアデザインでは､まず自分のミスマッチングの状況を､現在の「職業」を基準にして自己分析してみるところから始めることを勧めている。まず、

①自分は何をしなければならないか（MUST/SHOULD項目）

②自分は何が出来るのか（CAN項目）

③自分は何をやりたいのか（WILL項目）

を書き上げてみる。社会経験の乏しい人達は①②③の多くにズレがあり、当然のことながら①＝②＝③となることが理想的でこの場合は離・転職を考える必要は無い。しかし②＞①や①＞②・③の場合は現職にとどまるより転職を考えるほうがよいのかもしれない。人生の節目で見直しをし、必要であればキャリアプランの修正をしていくことも必要だ。キャリアデザインの作成とその進め方はこの自己分析から始まる。

今回、私は顧問として同窓会事業の一環で同窓会員を対象としたキャリアデザインについての支援活動に協力させてもらうこととなった。もちろんこのサービスは簡単に出来るものではないが、卒業生が社会人として理想的なキャリアデザインを作り上げ、それに副って本格的な職業人（プロフェッショナル）人生を踏み出す支援に微力ながら力を尽くしたいと考えている。

会　計　報　告

■ 2008 年度決算

（単位：円）

収　入			支　出		
項　目	金　額	摘　要	項　目	金　額	摘　要
前年度繰越金	12,921,889	三菱東京 UFJ 銀行	卒業行事援助	273,679	しおり、記念品、パーティー援助等
会費収入	2,340,000	2008 年度卒業生 234 名分	総会費	692,597	案内、資料、懇親会援助等
懇親会費	88,000		広報費	536,061	会報作成・送付
寄付金	20,000		奨学金	300,000	NACION スカラーシップ
預金利息	15,455	三菱東京 UFJ 銀行	HP・データ管理費	135,771	会員データ管理費、HP 維持管理費
			事務費	608,113	会議、交通、通信、人件費、雑費
			イベント費	241,500	外大 20 周年記念
			ロゴ制作費	71,925	ロゴ製作、名刺作成
			グッズ制作費	95,672	T シャツ、布バッグ
合　計	15,385,344		合　計	2,955,318	

次年度繰越金額　12,430,026 円

■ 2009 年度予算

（単位：円）

収　入			支　出		
項　目	金　額	摘　要	項　目	金　額	摘　要
前年度繰越金	12,430,026	三菱東京 UFJ 銀行	卒業行事援助	350,000	しおり、記念品、パーティー援助等
会費収入	2,300,000	2008 年度卒業生（見込み）	総会費	3,000,000	案内、資料、懇親会援助等
預金利息	15,000	三菱東京 UFJ 銀行（見込み）	広報費	500,000	会報作成・送付
			奨学金	200,000	NACION スカラーシップ
			HP・データ管理費	200,000	会員データ管理費、HP 維持管理費
			事務費	600,000	会議、交通、通信、人件費、雑費
			キャリアアップ支援費	100,000	名刺交換会等
			予備費	50,000	
合　計	15,241,889		合　計	5,000,000	

次年度繰越予定金額　9,745,026 円

同窓会クイズ

母校を思い出して、クイズに挑戦！

全問正解された方の中から抽選で 10 名様に同窓会の素敵なロゴ入り T シャツ＆コットンバッグをセットでプレゼント。
①右記 3 問の答え、②学籍番号、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥T シャツのサイズ（メンズ M、L ／レディース S、M）を記入して、ハガキか Email にて下記までお送り下さい。
多数のご応募をお待ちしております。
（プレゼント商品の色は事務局におまかせください。）

応 募 先：〒 470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学
国際経営学部・現代国際学部 同窓会事務局
Email：info@nacion.jp
応募締切：2010 年 2 月 28 日（日）必着

1 問　名外大校歌の作曲者は？

① 久石 譲　② モーツァルト　③ 小林 蔵雄

2 問　名外大図書館はどれ？

①

②

③

3 問　名外大の学部は、外国語学部と現代国際学部の 2 学部ですが、学科は合せていくつ？

① 20 学科　② 7 学科　③ 2 学科

同窓会へ寄付をお願いします。

同窓会事務局では、在校生への奨学金の増額や同窓生のキャリア支援事業を活性化すべく様々な案を検討しておりますが、経費の問題で実現できずにいる企画が多々あります。今後は同窓生及び在校生への支援を拡大していきたいと考えますので、ご賛同いただける会員および関係の皆さまからご寄付を賜りたくお願い申し上げます。尚、ご協力いただきました方々は会報誌にお名前と回生を掲載させていただきますのでご了承下さい。

振込方法

千円を一口として下記の銀行口座までお振込み下さい。
尚、ご本人確認のため、振込者名に学籍番号と氏名をご入力いただくか、お振込みいただいた旨を同窓会事務局までご連絡ください。

振 込 先

三菱東京 UFJ 銀行　栄町支店　普通 1360405
口座名義：名古屋外国語大学国際経営学部同窓会

2008 年 12 月～2009 年 12 月までの寄付者

池田 明子 さん（1 期生）
畑　　恵 さん（2 期生）

ご支援ありがとうございます。

メッセージやイベント情報など、同窓会員へ伝えたい事を無料で掲載しますので、お気軽にご連絡下さい。

注意／個人・団体への誹謗中傷や宗教その他の勧誘目的など、法律に違反する内容や同窓会報に相応しくないと判断する内容は掲載をお断りする場合がありますので、ご了承ください。

会報やホームページへの広告を募集します。会員ご自身のご商売、お勤めの会社の PR にご利用いただけます。
有料広告となっており、広告費は在校生への奨学金、同窓生のキャリアアップ支援費として活用いたします。
広告方法、利用スペースによって金額が異なりますので、一度同窓会事務局へお問い合わせ下さい。

確実に案内等が届くよう、住所などの変更は速やかにご連絡下さい。
変更は NUFS+ の「卒業後の住所変更」よりご連絡下さい。郵送・FAX・Email でも受付けます。

【 NUFS+ 】
http://www.nufsplus.net

同窓会への ご連絡はこちら

〒 470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学
国際経営学部・現代国際学部同窓会事務局
TEL: 0561-74-1111　FAX: 0561-75-1723
Email: info@nacion.jp

役　員

中村憲広（会長・2 期）　岩出朋子（副会長・2 期）　畑　　恵（副会長・2 期）　浅井恭子（事務局長・1 期）　浅野万里子（書記・5 期）
吉田正幸（書記・6 期）　瀧　浩史（会計・1 期）　近藤健太（会計・8 期）　石井恵美子（会計監査・1 期）　登立洋平（会計監査・10 期）

幹　事

飯吉美絵（1）　太田友和（1）　加藤優一（1）　神谷理恵（1）　代田喜之（1）　鈴木千賀（1）　鈴木裕介（1）　武原啓子（1）
中川大輔（1）　中野桃子（1）　服部貴子（1）　松原一仁（1）　山口千恵（1）　山崎　豊（1）　浅野享洋（2）　伊藤真彦（2）
大井健一（2）　岡崎由美（2）　原万里子（2）　平林順子（2）　森川浩希（2）　八木正人（2）　荒川誠治（3）　伊藤　望（3）
鳥居佳夫（3）　平井由香（3）　犬飼尚樹（4）　田中文彦（4）　藤田達也（4）　後藤直樹（5）　潮田裕稔（5）　吉田和代（5）
伊藤太一（6）　内門はるか（6）　大石彰則（6）　城月雅大（6）　井上高志（7）　祖父江匡記（7）　竹内千晶（7）　田中潤一（7）
徳山正康（7）　楊　　佳（7）　伊藤浩明（8）　藤田浩史（8）　水野裕也（8）　新宮好洋（9）　石井和弥（10）　岡本　愛（10）
坪井祐一（10）　豊田　匡（現 1）　松井麻美（現 1）　半田涼子（現 2）　山崎　晃（現 2）

沿　革

2008 年 12 月　同窓会報「NACION paper」第 5 号発行
2008 年　6 月　慶弔等に関する規程の施行
2008 年　5 月　第 4 回総会及び懇親会開催
2008 年　4 月　同窓会名称を「名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会」（通称：NACION）へ改称
2008 年　1 月　同窓会報「NACION paper」第 4 号発行
2007 年　7 月　第 3 回総会及び懇親会開催
2007 年　5 月　同窓会報「NACION paper」第 3 号発行
2007 年　3 月　個人情報保護に関する規程の施行
2006 年 12 月　同窓会 SNS サイト「NUFS+」開設
2006 年 11 月　同窓会ホームページ「NACION」開設
2006 年 10 月　同窓会報「NACION paper」第 2 号発行
2006 年　7 月　第 2 回総会及び懇親会開催
2006 年　3 月　国際経営学部同窓会報創刊
2005 年 12 月　第 1 回総会及び懇親会開催
2004 年 10 月　国際経営学部同窓会名簿発刊
2004 年　4 月　現代国際学部（現代英語学科・国際ビジネス学科）開設
1998 年　3 月　第 1 期生卒業、国際経営学部同窓会発足
1994 年　4 月　国際経営学部（国際経営学科）開設
1988 年　4 月　名古屋外国語大学創設

会　　則

第１条　本会は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会と称する。
第２条　本会は、名古屋外国語大学内に事務局を置く。
本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする。
第３条　本会は、前条の目的を達成するため、次の各号の事業を行う。
(1) 会員の親睦に関する事業
(2) 会員名簿の発行
(3) その他前条の目的を達成するための必要な事業
第４条　本会は、本学部の卒業生をもって構成する。
第５条　本会には、次の役員を置く。
(1) 会　　長１名　(2) 副 会 長２名　(3) 事務局長１名
(4) 会　　計２名　(5) 会計監査２名　(6) 書　　記２名
第６条　本会に卒業年次毎に若干名の幹事を置く。
第７条　本会に名誉会長を置くことができる。名誉会長には学長を推戴する。
第８条　本会に顧問を置くことができる。顧問は役員会にて推薦する。
第 10 条　会長・副会長は総会にて選出し、その他の役員は会長が幹事及び会員の中から委嘱する。
2. 幹事となる候補者は、ゼミで立候補若しくは推薦により選出し、会長に届け出るものとする。
第 11 条　役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。
2. 欠員によって補充された役員の任期は、前任者の残任期間とする。
3. 役員は任期が満了の後でも、後任者が選出されるまで、なおその職務を行う。
4. 幹事の任期は、永続とし交代したい場合は、後任者を選出し、その旨を役員会に届け出ることとする。
第 12 条　役員及び幹事の職務は次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
(3) 事務局長は、本会の総括事務にあたる。
(4) 会計は、会計事務を担当する。
(5) 会計監査は、会計を監査し、監査報告書に意見を付し会長に提出する。
(6) 書記は、本会の庶務事項を処理し、書類を保管する。
(7) 幹事は、諸業務を分掌する。
第 13 条　役員会は、会長がこれを招集する。
2. 役員会の議長は、会長が行う。
3. 役員会は、役員の過半数をもって成立し、議事は出席役員の過半数をもって決する。
第 14 条　総会は、定期総会と臨時総会とする。
2. 定期総会は年１回開催し、臨時総会は必要な時に開催する。
3. 定期総会・臨時総会は、会長が招集する。
4. 総会には議長を置く。議長は総会で選出する。
第 15 条　次の事項は総会の議決を経なければならない。
(1) 会長・副会長の選任または、解任
(2) 本会の事業計画及び収支報告
(3) 本会の事業計画及び収支決算
(4) 会則の変更に関する事項
(5) その他の本会の業務に関する重要事項
第 16 条　総会は会員の過半数の出席で成立する。議事は出席者の過半数で決定し、賛否同数のときは議長が裁定する。欠席の場合は、委任状をもってこれに代えるものとする。
第 17 条　本会の経費は、会費・寄付金をもってこれに充てる。
会費は、卒業時に終身会費１万円を納付する。
第 18 条　会計年度は４月１日から翌年３月 31 日までとする。
第 19 条　受け入れた金品は確実な銀行に預け入れて保管する。
第 20 条　すでに納入した会費は、返還しない。
第 21 条　本会の事務を処理するため事務局に職員を置くことができる。
2. 職員は、役員会の同意を経て、会長がこれを任免する。
第 22 条　本会は必要と認めた地域に支部を設置することができる。
2. 支部に関する細則は、別に定める。
第 23 条　本会会則の変更は、役員会の議を経て総会の承認を要する。
第 24 条　本会則の施行について必要事項の細則は、役員会の議を経て会長が定める。
第 25 条　会員で住所等の変更又は氏名を改めた場合は、本会に連絡するものとする。
第 26 条　個人情報の保護に関する規程は別に定める。
第 27 条　慶弔等に関する規程は別に定める。

個人情報の保護に関する規程

第１条　この規程は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会会則第 26 条に基づき、個人情報保護について定める。
第２条　名古屋外国語大学国際経営学部･現代国際学部同窓会（以下、「当会」という。）は会の目的を遂行するにあたり、「個人情報の保護に関する法律」（個人情報保護法）に基づいて個人情報を適正に取り扱うため、下記のとおり方針を定める。
第３条　当会では、会員に関する情報を以下の目的のために利用する。
1. 会員相互の親睦活動
2. 大学との連携による事業活動
3. 在学生の支援活動
4. 印刷物の発行・発送
5. インターネットを利用した情報の発信
6. その他、同窓会活動に関連する業務
第４条　当会では、「1. 個人情報の収集・利用の目的」を達成するため、次の情報を収集する。
1. 氏名・現住所・現住所の電話番号・メールアドレス
2. 勤務先
3. 生死に関する情報
4. その他、当会の活動のために必要と判断する情報
第５条　当会は、次の場合を除き、個人情報を第三者に提供しない。
1. 会員の同意がある場合
2. 名古屋外国語大学の依頼に基づく場合
3. 各種法令に基づく場合
第６条　同窓会事務局は、会員に関する情報を常に正確で最新のものに保つよう努めるとともに、当会外への漏洩、滅失または棄損が発生しないよう万全を尽くすこととする。また、業務遂行上の必要性から外部業者に業務委託等を行う場合は、委託先等に機密保持義務を課すなどその管理･監督に努め、個人情報の流出･不正使用･改ざん等を防止する。
第７条　この規程の改正及びこの規程に関する細則は、役員会の儀を経て会長が定めることとする。

慶弔等に関する規程

第１条　この規程は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会会則第 27 条に基づき、会員及び教授（退任者含む）の慶弔等について定めるものとする。
第２条　会員及び教授（退任者含む）に対する慶弔金については次のとおり定める。これは同窓会本部へ通達のあった場合に支給することとし、通達する者の故人との関係は特に問わない。
1. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等より前の通達）香典１万円、他に弔電
2. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等から３ヶ月以内の通達）香典１万円
3. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等から３ヶ月以上経過した後の通達）　支給不可
ただし、同窓会及び母校の発展に寄与した会員及び教授（退任者含む）についてはこの限りではない。
第３条　本会の活動及び母校の発展に特に貢献した会員及び教授（退任者含む）には、感謝状と記念品を贈呈する。
第４条　この規程の改正及びこの規程に関する細則は、役員会の儀を経て会長が定めることとする。